

原五洞先生の碑

北茨城市平潟町208（大日堂）

北茨城市平潟小学校より約200メートル北東へいった急坂を登ると大日堂といわれるお堂があります。その前に二基の碑が建っています。右側のものが、「原五洞先生の碑」といわれるものです。この碑は、幕末のころ、平潟村に私塾「五洞学舎」を開き、住民から慕われた原五洞の供養碑です。

原五洞は、文化3年（1806）に平潟村の名家、鈴木家に生まれました。父は鈴木忠三郎、母は、棚倉藩の表玄関であった平潟港を取り締まる役人であった鈴木主水の娘でした。幼い時から賢い子であると評判がたち、伯父に可愛がられ、読み書きを教えられました。性格はたいへん落ち着いた態度で、物静か。成長すると常に酒を嗜む人物であったようです。後に太田錦城（江戸時代中期の儒学者。江戸で私塾を開いた後、三河吉田藩や金沢藩等に招かれました。）のもとで儒学を修め、長崎に行き、医術を学び、医者をなりわいとしたこともありました。天保8年（1825）、棚倉藩に招かれ、師であった侍医の原氏の養子となりました。その後、郷里の平潟村に居住を許され、この地で五洞学舎を開きました。この私塾の教育内容について詳しく



はわかりませんが、評判がよく、五洞学舎に学び来る人は数百人にも及んだといわれています。

慶応3年（1867）に棚倉藩主の松平氏が川越へ移されることになると松平氏に従い、原五洞も川越に移ります。そして、明治3年（1870）7月、病のため川越で没しました。数え65歳の人生でした。その後、門弟たちが原五洞の徳を偲び、友人が撰文し、故郷の平潟の地に供養碑を建てたということです。

この碑は、幕末に都市部だけではなく、地方の村々にも私塾という形をとりながらも教育が普及し、指導者たちが人々の尊敬を受けていた証となる碑であるといえるでしょう。

茨城教育 第八六〇号

令和元年六月二十日発行

編集責任者 高堀 正伸

発行人 高堀 正伸

発行所 一盤園文 茨城県教育会

水戸市見和一三五六一一

電話 〇二九一三二一七四七

印刷所 有限会社山田軽印刷所